



地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を

### 全国事務局長会議を開催

村田きょうこ必勝と組織拡大に向け熱い論議を交わす

12月8日、東京・友愛会館において、2022年度全国事務局長会議を開催した。事務局長会議は3年ぶりの開催で、本部役員と地方シニア事務局長、ご来賓等を含めて総勢45人が出席した(内Webでの参加が18人)。会場の友愛会館大会議室には27人が集結。久々の対面に、歓び合う光景があちこちで見られた。会議に先立ち、参議院議員比例代表候補予定者「村田きょうこ」さんから、地方遊説活動の合間を縫ってWe

bでの力強い挨拶をいただいた。引き続き、JAM準組織内国会議員、JAMものづくり国会議員懇談会幹事長の森本真治参議院議員より国政報告を含めたご挨拶。その後木村副会長の司会進行で会議が開始された。まずシニアクラブを代表して大山会長から「総選挙の結果、自民党が絶対安定多数を確保し、維新を含めると憲法改正の発議が可能な状況となった。岸田内閣に、やりたい放題をさせないために、次の参議院

選挙で衆参ねじれを作ることが必要。また、社会保障制度を安定・充実させるために我々の主張を理解し連携できる国会議員を持たねばならない。「村田きょうこ」を参議院に送り出すためにシニアクラブも全力をあげて取り組む」との力強い挨拶があった。次にJAM現役を代表して椎木副書記長より、参議院選挙をめぐる情勢、定期大会後のJAMの主要活動の報告を中心に連帯と激励の挨拶をいただいた。

主要な協議事項は、「参議院議員選挙の取り組み」と「2022年度重点活動・組織強化と拡大の取組みについて」であった。「参議院議員選挙取組み方針」については、出席者より政党所属の問題、OB全体への支持拡大の取り組み、応援カードの記載内容など様々な質問や意見表明が出され、熱気のこもった活発な論議がかわされた。組織拡大の取組みについては、定期総会に特別報告をした「1万人会員実現プラン」と「60歳以降継続雇用者に対する対応方針」について現役の理解を深



めるために、シニアと現役の定期協議を定例化、充実化していくことを改めて確認した。最後に、大山会長の発声で、村田きょうこ必勝と組織躍進に向けたガンバローを三唱して閉会した。

### 訃報

JAMシニアクラブ  
前事務局長・山口政市さん  
享年78歳

12月11日、闘病治療の甲斐なくご逝去されました。

山口さんは、JAM東京の役員を退任されたあと、2007〜08年事務局次長、2009〜14年事務局局長として、JAMシニアクラブの活動の定着と発展に多大なる貢献を果たされました。

本年7月6日に行われた結成20周年記念座談会にご出席され、相変わらず若々しく、お元気そうなお様子を拝見していただだけに、残念でなりません。生前のご厚誼に感謝を申し上げます。心よりご冥福をお祈りいたします。



### 主張



現在の会員は、36名(内女性4名)と決して多くではありませんが、楽しく活動しています。会員も年々高齢化が進

大規模買収事件で公選法違反罪の実刑確定。法務大臣自ら動き、地方議員の買収という前代未聞の事件でした。選挙資金の分配が、1億5千万円という多額の資金を投入した説明もなされていません。なぜか最近の情勢は不明な事が多すぎるような気がします。

### 2021年広島の出来事 広島シニアクラブ事務局長 岡田壽夫

2021年も残り1か月となり、今年もコロナ禍との闘いで終始した1年であったように感じます。シニアクラブの活動も自粛されました。特に各年度の総会は1泊の開催としており、会員の楽しみとする行事です。しかし2020・2021年度は開催中止とし、「書面議決方式」となりました。他の行事としては、「プロ野球観戦」・「日帰り交流会」を定例の行事としております。この行事については、2021年度は何とか開催することができました。

み、行事参加が難しい会員も発生しております。無理なく、楽しく、参加できるように配慮してまいります。組織拡大の必要性を感じます。少し話題をかえて、2021年広島市の出来事を振り返ってみます。まずは「2019年参院選広島選挙区を巡る

救いがあったのは「参議院再選挙」において、我々が支持した、野党新人候補が当選したことです。広島県民はまだまだ常識ある判断ができると少し安堵しました。二つ目は「広島から3人目の総理大臣が誕生したこと」です。同じ広島県人として少しは期待できる総理大臣ではないかと思うところです。せめて「安部・菅政権が残した負の遺産」の総決算はして欲しいものです。1億5千万円政治資金の分配説明も同様です。被爆地出身総理として、核兵器の無い平和の実現に向け、来春の「核兵器禁止条約の締約国会議」へ臨む姿勢を明確にし、その責務を果たして欲しいものです。

最後に、シニア会員の大好きな「広島カープ」。来年も観戦の計画を立て楽しみにしています。「神ついで」鈴木誠也の穴は誰が埋めるか? 楽しみである!

定期総会開催

組織の拡大に向けて特別議案を取り決める  
愛媛シニアクラブ事務局長 藤井正剛

11月23日JAM愛媛高齢者・退職者の会第21回定期総会を新居浜市高木町の「レイグラツェフ」でコロナ禍を考慮し構成組織代表者と役員による縮小総会（15人）として開催した。

開催挨拶を前田副代表幹事、総会議長に井関退職者の会の館氏を選出して進行。冒頭、森永代表幹事が挨拶

のなかで「いまの状況、コロナが収まりつつありますが、いつ第6波が出るかも分かりません。ワクチンの



三回目接種もあるようですが、お互い高齢者なので健康管理に引き続きご留意ください。・・・この二年間、シニアの対外的な活動はほとんど出て来ていません。事前に総会議案書を配布していただきましたので、ご意見・提案がありましたら遠慮なく出して頂き、コロナが収まったら皆で取組みましょう」と呼びかけた。

次に本総会に寄せられたメッセージ（シニアの大会長、白石洋一衆議院議員、永江孝子参議院議員、石川稔愛媛県議、労金及び全労済）を為清事務局次長が読み上げ披露した。

その後議事に入り、2021年の活動経過と決算報告、監査報告、22年度活動方針案と予算案を、いずれも全員賛成で決め、役員も全員賛成で決めた。選出も全員の留任を満場の拍手で決定。

なお、活動方針の主要な柱である「JAM愛媛シニア組織の拡大に向けて」を特別議案（原則、60歳以降の全ての単組組合員を対象に組合員兼シニア準会員Ⅱ労組とシニア組織への二重加入、特に雇用延長に伴う

有期雇用組合員の組合費は250円に減額され、差額の450円が当該組合に還元されるので、この月から月額175円を当該組合で充当預ければ、その間、新たな個人負担なしでシニアの活動に参加できる。退職者組織の場合も、当該組合がこれに準じて応分の負担を行うものとする。）として決め、現役員との連携強化懇談会を早期に持つて一層の理解と協力を得ながら組織化に努めることとした。

定期総会開催

地球温暖化抑制を課題に  
学習会を開催  
愛知シニアクラブ事務局長 熊谷悠之

第21回定期総会を11月27日ライブプラザ「れあろ」ホールに42名が参加し、総会終了後学習会を開催した。

学習会の講演テーマは、地球温暖化を課題にした「天変地異」（燃える村、雨が降らない、大洪水、燃える地球、気候変動の「転換点」）。講師は、浜島昭二氏（元・豊橋技術科学大学教授、NPO法人環境研究所豊明理事長）。

北アメリカでは少雨、高温、乾燥が続く、水力発電ダムが干上がり、発電能力の低下を引き起こしている一方、今年7月にヨーロッパのドイツ西部では大洪水が発生し、他方、地中海沿岸、中東、北米、北欧、シベリア、オーストラリアでは50度を超す熱波の襲来で大規模な森林火災が発生していることも紹介された。まさに全地球的規模で環境問題が発生していることを突き付けられた訳ですが、なぜこのような異常気象

が頻発しているのか？これらの現象を防ぐことはできるのか？できるとすればどうしたらいいのか？自然現象だから「仕方ない」とあきらめるのではなく、人為的な側面による地球温暖化にブレーキをかけること、「気候変動の転換点」に着目し「温室効果ガスの排出削減」の発言があった。

COP26が2021年10月31日から11月12日までスコットランドで開催された。この会議の目的は、気候変動の壊滅的な影響を回避するため世界は何をしなければならぬかを論議し決定することでした。

「各国事情はあろがみんなで力を合わせて温室効果ガスの排出を減らし、同時に二酸化炭素を吸収してくれる地上・海の緑を護り、復活させなければならぬ」との発言を受けた。



退職者連合の社会保障学習会に参加

日本退職者連合は11月22日、連合会館（東京都千代田区）の会議室で「社会保障学習会」を開催した。コロナの感染状況が相対的に落ち着いていることもあって会場に50人余、ライブ配信を含め120人が参加した。JAMシニアクラブからは大山会長、早川副会長（退職者連合副事務局長）、大野事務局長、河野幹事の4人が参加した。

学習会の講師は、長らく厚生労働省で介護保険制度などの制度創設・改正に携わった上智大学総合人間科学部の香取照幸教授。演題は「2040年の社会保障の姿を考える」。40年頃に65歳以上人口がピークとなり、3900万人、高齢化率37.38%となることと、20年先に今生まれる子供たちは働き始めるわけで20年後の働き手の確保、少子化対策を今やらなければならないことが取り上げられた。①社会保障は困った人のためにはあるのではなく、人生のリスクを回避するためみんなのためである、②社会の分断を回避し社会が安定し、経済が成長するのを支えるためである、③社会保障の持続可能性は社会と経済の持続性と同義である、④社会保障が経済全体の富を分配するツールであることを指摘し、具体的な社会保障改革については時間の制約もあって個々の制度改革まではふれなかったが、次の通り述べた。

まずは経済成長、財政再建、社会保障を同時に解決することを踏まえること、これから先の社会保障費の伸びは、マクロ経済スライドで年金が減るため意外とマイルドであることが指摘された。少しずつ下がっていく年金については本人の選択で受給年齢を先に延ばすとか、いの一にやることは担ぎ手を増やすために年金の適用対象を非正規などに拡大することに言及した。

最後に一番深刻なのは少子化であると指摘し、働くことと家族を持つことが両立できる社会を作ることの重要性を強調した。

講師の話聞き、長い年月をかけて作り上げられてきた社会保障制度本体の改革は難しく、マクロ経済スライドによって2047年度にはその価値が3割目減りすると言われている基礎年金や介護士、看護師などのケア労働者の低賃金などを解決するためには、社会保障制度を支える国庫負担（税金）の在り方に踏み込まざるを得ないという印象を持った。

（大山記）